

心持について

宮本百合子

青空文庫

或瞬間（思い出）

正午のサイレンが鳴ってよほど経つ

少し空腹

工事場でのこぎりの音

せわしい技巧的ななめらかな小鳥のさええずり、
いかにも籠
の小鳥らしい美しきで鳴く

とつぜん ガランガランと

豆屋のベルの音がした。

そして私は思い出した。刑務所の

さむい朝と 夜とを、

主として夜を

その音が どつか遠くで順々にきこえ

いつも最後に女舎で鳴り、机をたたんで床をしいたのを。
とこ

今も宮がその音で床をしいているのを、

彼の眉としまった 少しへの字にした口許とを

O b a p a の気持

何だか宙で一つぐるんとぶんまわって 自分の体の上下がわからなくなったような 自分のこの社会におけるあり場所がわから

なくなつた感じ。

嘔気の出る感じ。

夜ふけのローソク

スエ子が、

ふつとふき消した、のにベッドのシーツのところが一部分白く、硝子もあかるく見えている。月がさしているようで、雨の音がしているのに 思わず目を上へやって見る、すると黒い幕を下からスツと急に上げたように四辺が真暗くなる、もう何も見えない。

その瞬間の錯綜と或美しさ。

手紙の重み

ヒョータン形の郵便の目方はかりではかりつつ

「実際こんな手紙に 六銭はんなけやならないなんて 癪だわ」

見て知らん振

銀座 雨もよい weekday の午後一時すぎ むこうから特長の

ある石川湧の鳥打帽 タバコをふかしつつ コバルト色のコート
傘の若い女と並んで歩いて来る、女私の前を通すぎるとき 傘

を傾けて顔をかくしてしまう　湧　煙草をふかし　こつちを見、
しかし　知らぬものを見ているように見て通りすぎてしまう。

朝　ロク　洗面所で

「この頃　*^{ジン}*人が　石川湧にフランス語を習ってるんだって」
「フーム」

「唯ケンを出てしまったんだってね　盛ニユイケンのわる口　云
つてたそうだ」

「こわくなつてやめたんだろう　この頃狙われてるから」

「ナカナカ伶俐口だつて云つてた」

「ふむ　それがね　どうも……」

あの若い女のひとと彼とのこと

その彼ときような女とのこと　いろいろ

○彼女が身のまわりに持っている雰囲気の中には

常にある爽やかさがあつた。

それが生活の或時期では健康さと芸術に対する野心から

次の時期には単純であるが確信に満ちたガンバリから

そして最近それは度々の鍛練によつて引しまりやきがはいり、
ばねはつよく正確になつて、落付きしかも一層澄みとおつた
ような爽やかさとなつて来たのを○子は感じた。

青空文庫情報

底本：「宮本百合子全集 第十八卷」新日本出版社

1981（昭和56）年5月30日初版発行

1986（昭和61）年3月20日第2版第1刷発行

初出：同上

※「＊」は不明字。

入力：柴田卓治

校正：磐余彦

2004年2月15日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.waozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

心持について

宮本百合子

2020年 7月13日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>